

# PARNASSIUS

No. 12

## 目 次

|                         |           |    |
|-------------------------|-----------|----|
| 秋、冬のクチキコオロギ.....        | 山崎俊道..... | 1  |
| 淡路島産の蝶類追加(Ⅰ).....       | 堀田久.....  | 4  |
| 洲本市でミヤマクロハナカミキリを採集..... | 堀田久.....  | 4  |
| 南淡の蛾(Ⅱ).....            | 藤平明.....  | 5  |
| 淡路島産のセミ類について.....       | 堀田久.....  | 13 |
| 淡路島でコカブトムシを採集.....      | 堀田久.....  | 14 |
| 夜間における蛾類の集団吸蜜例.....     | 登日邦明..... | 15 |

淡路昆虫同好会

1974

## 秋、冬のクチキコオロギ

山 崎 俊 道

本種は成虫、幼虫共に一年中見られ、エンマコオロギと並ぶ大型種にもかかわらず、分布が局地的であること、枯木や生木の樹皮下、樹洞を住家とするなど、比較的人目にふれる事が少なく、又その特異な習性などが相まって未だ不明な点が少なくない。

筆者は今回淡路島に於けるクチキコオロギの観察を、三熊山、淳仁天皇御陵、先山にもとめ、1973年10月9日より1974年3月末日までのわずか5ヶ月間であるが、飼育とを併せ行なったので、これをここに報告する。

尚、野外観察、飼育は引きつづき行なっている。

### I 発音行動

10月9日以後の観察であるが、この頃は昼、夜ともに盛んに鳴くのが観察され、鳴声は二種類に大別できる。

一つは、雄が単独でいる場合、あるいは雌が近くにいっても無関心な場合で、比較的澄んだ声で高く、ギー、ギーと一定のリズムで続けて鳴く。

他の一つは、明らかに雌への求愛を示すものであり、交尾に移る前によく聞かれ、しわがれた低い声で、リズムの一定しない鳴き方となる。

前者の場合、テリトリーの主張、雌を呼ぶなどの意味が考えられるが、ここでは便宜上単にテリトリーソングと称し、後者をラブソングと称しておく。

両者の区別は野外に於ても、比較的容易にできるが、気温が下がり一様に低くしわがれた声になると区別が困難になる。

一般に昼間は樹皮下、石垣の隙間（一例のみ観察）、樹洞などの潜伏場所で鳴き、外の気配にも敏感であるが、希に潜伏場所より出て鳴いている個体を見る事がある。

この場合は近くに雌が潜伏しているときで、注意は専ら雌に向けられており、明らかにラブソングで容易に鳴き止まぬ。

夜間は潜伏場所を離れて鳴く事も多い。それがラブソングの場合特に顕著で、これは雌が潜伏場所を離れて動き出す事から、雄も必然的にその動きにつられるものと思われる。

終鳴は、12月15日三熊山で観察したもので、その時の外気温が10.5℃であった。尚、この間にあっても、寒い日などは全く鳴声の聞かれぬ事もあり、11月に入ってから、昼間のごく暖かい時間帯だけに限られていたようである。

発音行動は温度の影響を非常に受けるものであるが、今回の観察では、何℃以上で鳴き始める、といった明確な基準は見出せなかった。が、原則として、10℃以下では鳴かぬように思われる。

室内飼育の個体では、室を暖めた場合、12℃位で鳴き出すのが観察されたが、他の要因も影響するの一般的なではない。

室内飼育のものでは、12月31日まで鳴声が聞かれた。この間、12月中の室温は最低で3℃、最高で11℃を越える事はなかった。

## II 交 尾

野外での交尾は観察できなかったが、飼育のものに於ては、たびたび観察された。

最初に観察したのが10月12日、終りが10月28日であった。

交尾の状態は、先づ雄が前翅を立て、体を前後にゆすり、ギー、ギーとしわがれた声で低く鳴きながら雌に向かって後ずさりして行く。雌の下へ尻をやりながら雌が雄の上に乗り易いようにする。あるいは、雄が強引に雌の下へもぐりこんでしまう。雌はエビ型に体を少し曲げ、雄の立てたままの前翅の内側に前脚を乗せた状態で生殖器の結合が行なわれる。当然ながら、交尾中雄は鳴かない。

一回の交尾時間は一定せず、20秒位から20分に到ることもあり、交尾回数も数回から10数回を越える事もあり一様でない。

同一個体が、数日を経て再び交尾する事もしばしば観察した。

## III 食 性

一般に昼間は潜状場所を離れることがなく、夜間歩きまわって摂食することが知られているが、気温の低下につれて、その動きも鈍くなる。

10月も後半に入ると肌寒い日が続き、夜間の観察に於ても、あまり動きまわる様子は見られず摂食量も減少するようである。

一本の松の皮下に7匹(雄2、雌5)いるグループの終日観察を行なった例でもそれがいえるようであった。

日没後、各個体が潜状場所より出て動き始める時間は一様でなく、各自気が向いた時に行なうようである。

10月24日行なった観察の一例を挙げてみると、1個体が松の潜状場所を離れたのが、午後8時30分、松の根元部分に生えていたキノコの一種を、次ぎに1m程離れた場所で、ツユクサのやや乾燥気味の花の部分それぞれ10分間程度食した。しかし、いずれも食痕はごくわずかであった。

この頃になると動作も緩慢で、地上に降りてからもしばしば活動を停止する事がある。風の当る

ような、決して越えるような場所でないにもかかわらず、1時間、ときには2時間も静止状態をとる事があり、これらは他の個体にも共通して見られた。

摂食を終え、再び元の松に戻ったのが午前0時、しかし同じ松でも潜伏場所は前と異なっていた。又、他の個体では再び戻ることなく、3 m程離れた別の樹へ上ってしまった。

たどり着いた時点で適当な潜伏場所があれば、それを利用するものと思われる。

野外観察では、特に本種の好む食物は見出せなかった。

飼育に於ては、キュウリ、ナスビ、青菜、松露、松の樹皮、蜜蜂の仔、マイナーフード（九官鳥の餌）を与えたが、いずれも食した。

一度などは、バリバリと音がするので近づいてみると松の樹皮をかじっていることもあった。一般に青菜類を好み、摂食量も大である。

11月29日、野外で採集した雄1頭に青菜を与えた時の例では、大変な食欲ぶりを示し、音をたてながらわずか5分位で、2.3 cal（方眼紙で計算）を食した。（午後11時、気温10℃）野外では相当飢えた状態にあったものと思われる。

室内飼育のものでは、冬期でも小量ながら青菜を食し、ときどき蜂の仔（冷凍保存したもの）をも与えると食するのがみられた。

しかし、いくら飢えた場合でも、冬期間共食いはみられなかったし、他の個体の死んだのを与えても、それを食するようなことはなかった。

## Ⅷ 越 冬

野外での越冬状態を観察するにあたり、時期により必要に応じて棲息場所に赴き、できるだけ多くの潜伏場所を調査した。

その結果、12月末までは潜伏場所にも差異はみられず、雌雄の割合もほぼ同じであった。1月を過ぎる頃より変化がみられはじめ、これまで外から容易に観察できる場所にいた個体が、徐々に姿をけし始める。

これはより完全な越冬体制に入るための、潜伏場所の移動がなされたものと思われる。

この頃になると落伍者も目につきはじめ、樹皮下、樹洞内で死体を見出すことになる。

これは雄にも雌にも見られることで、越冬という苛酷な条件のもとで、一種の淘汰が行なわれるものと思う。

飼育のものでは、2月に入って雄は死に絶え、雌も半数近く死んでしまった。幼虫は非常に強く、悪い条件下でも死ぬことはなかった。

これから考えられることは、越冬は本種にとって大きな試験であり、弱い個体は淘汰される。交

尾を終えた雄は、原則として越冬中に死に絶えるものと思われる。幼虫は、成中以上に強く、うまく適応できるものと思われ、死亡率も少いように思われた。

## 淡路島産の蝶類追加 (I)

堀 田 久

筆者は、淡路島産の蝶類について本誌№9に発表したが、その後採集されていることが判明した種について報告しておきたい。なおこれで淡路島から記録された蝶類は、トラフシジミ(本誌№10)を加えて72種類を数えることになる。

### 1. コツバメ *Ahlbergia ferrea* Butler

山崎俊道氏が1965年と1966年の4月、津名郡五色町広石と下橋で本種をかなり採集し、多数の個体を目撃されている。

### 2. ヤクシマルリシジミ *Celastrina puspa umenonis* Matsumura

1972年10月、三原郡南淡町灘で本種が1頭採集されている。(写真から♀と思われる)これは、愛媛大学農学部昆虫学研究室が国立公園協会から依頼されて、本四架橋ルートの島々の昆虫相の調査を実施したとき記録されたものである。(本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書、学術編昭和48年3月財団法人国立公園協会)なお、未筆ながら貴重な資料を御恵いただいた愛媛大学農学部の久松定成先生に厚くお礼申し上げます。

---

## 洲本市でミヤマクロハナカミキリを採集

1973年5月12日、洲本市安乎町で、ガマズミの花に来ていたミヤマクロハナカミキリ *Anoplodera excavata* Batesを3exx採集したが、1974年5月18日にも全く同じ場所で本種を8exx採集したので報告しておく。

(堀 田 久)

## 南 淡 の 蛾 (Ⅱ)

藤 平 明

ヤガ科 Noctuidae

(ウスベリケンモン亜科 Pantheinae)

54. ウスベリケンモン *Anaeronicta nitida* Butler

5月～6月 かなりいる

55. コウスベリケンモン *Anaeronicta caliginea* Butler

'73. 9. 22(Ama)

(ケンモン亜科 Apatelinae)

56. ミドリケンモン *Daseochaeta viridis* Leech

'60. 11(Ama)

57. ナシケンモン *Apatele rumicis oriens* Strand

4月、6月、10月(Ama)

58. シロハラケンモン *Apatele pulverosa* Hampson

'62. 8. 7(Ama)

59. オオホソバケンモン *Apatele tridens* Denis et Schiffermiiller

60. シロシタケンモン *Apatele hercules* C et R Felder

'73. 5. 28(Ama)

61. サクラケンモン *Apatele strigosa adaucta* Warren

'68. 4. 30(Ama) '73. 5. 19(Ama)

62. シマケンモン *Craniophora fasciata* Moore

'62. 6. 10(Ama)

(キノコヨトウ亜科 Cryphiinae)

63. イチモジキノコヨトウ *Cryphia granitalis* Butler

'61. 9. 2(Ama) '72. 8. 31(Ama)

64. キノコヨトウ *Cryphia obscura* Warren

'61. 8. 30(Ama)

(モンヤガ亜科 Noctuinae)

65. ウスグロヤガ *Euxoa sibirica* Boisduval  
' 58. 5. (Ama) ' 58. 9. (Ama)
66. カブラヤガ *Agrotis fucosa* Butler  
4月~5月 9月~10月
67. オオカブラヤガ *Agrotis tokionis* Butler  
' 58. 10. 22 (Ama)
68. クロクモヤガ *Harmonassa oecilia* Butler  
' 58. 10. 29 (Ama) ' 58. 11. 7 (Ama)
69. カバスジヤガ *Sineugraphe exusta* Butler  
' 61. 7. 5 (Ama)
70. オオバコヤガ *Diarsia canescens* Butler  
' 59. 4. 29 (Ama) ' 72. 5. 12 (Ama)
71. ミヤマアカヤガ *Diarsia brunnea* Denis et Schiffermiiller  
' 58. 10. 22 (Ama)
72. コウスチャヤガ *Diarsia deparca* Butler  
4月~5月 9月 (Ama)
73. ウスイロアカフヤガ *Diarsia ruficauda* Warren  
' 73. 6. 18 (Ama)
74. アカフヤガ *Diarsia pacifica* Boursin  
' 60. 4. 30 (Ama) ' 60. 10 (Ama)
75. シロモンヤガ *Amathes c-nigrum* Linne  
' 73. 5. 3 (Ama) ' 73. 6. 5 (Ama)
76. マエキヤガ *Amathes stupenda* Butler  
' 58. 9. 24 (Ama)
77. ウスチャヤガ *Amathes dilatata* Butler  
' 61. 11. 11 (Ama)
78. クロギシギシヤガ *Naenia contaminata* Walker  
61. 6. 3 (Ama) 9~10月 (Ama)

( ヨトウガ亜科 Hadeninae )

79. ヨトウガ *Mamestra brassicae* Butler  
4月～5月 9月～10月 (Ama)
80. シロシタヨトウ *Mamestra illoba* Butler  
4月～5月 9月～10月 (Ama)
81. シロヘリキリガ *Orthosia limbata* Butler  
74. 3. 31 (Ama)
82. スモモキリガ *Orthosia munda* Denis Schiffermüller  
63. 3. 20 (Ama)
83. カシワキリガ *Orthosia gothica askoldensis* Staudinger  
63. 3. 20 (Ama)
84. マツキリガ *Panolis flammea japonica* Draudt  
63. 4. 13 (Ama) 67. 4. 15 (Ama)
85. フタオビキヨトウ *Mythimna turca limbata* Butler  
59. 5. 14 (Ama) 69. 6. 3 (Ama)
86. マメチャイロキヨトウ *Leucania consanguis* Guenee  
73. 7. 20 (Ama)
87. ウラギンキヨトウ *Leucania pryeri* Leech  
5月～6月 (Ama) 60. 9. 3 (Ama)
88. スジグロキヨトウ *Leucania nigrilinea* Léech  
58. 9. 25 (Ama)
89. オオスジシロキヨトウ *Leucania salebrosa* Butler  
68. 5. 30 (Nada)
90. クロシタキヨトウ *Leucania placida* Butler  
59. 6. 7 (Ama) 68. 5. 30 (Nada)
91. アワヨトウ *Leucania separata* Walker  
58. 9. 24 (Ama) 61. 9. 3 (Ama)
92. クサシロキヨトウ *Leucania loreyi* Duponchel  
73. 4. 22 (Ama)



93. スジシロキヨトウ *Leucania insecuta* Walker  
 '58. 9. 24 (Ama) '58. 11. 17 (Ama)
94. アトジロキヨトウ *Meliana compta* Moore  
 '58. 10. 25 (Ama)  
 (セダカモクメ亜科 *Cuculliinae*)
95. キバラモクメキリガ *Xylena formosa* Butler  
 '59. 3. 29 (Ama) '62. 2. 11 (Ama)
96. ウスミモンキリガ *Eupsilia contracta* Butler  
 '58. 12. 23 (Ama)
97. ミツボシキリガ *Eupsilia tripunctata* Butler  
 '62. 2. 22 (Ama)
98. ノコメトガリキリガ *Telorta dirergens* Butler  
 '60. 11. 18 (Ama) '61. 11. 27 (Ama)
99. ウスキトガリキリガ *Telorta acuminata* Butler  
 '73. 11. 22 (Ama)
100. アオバハガタヨトウ *Valeriodes viridimacula* Graeser  
 '61. 6. 3 (Ama) '62. 12. 14 (Ama)  
 (カラスヨトウ亜科 *Amphipyrinae*)
101. アカモクメトヨウ *Apamea oriens* Warren  
 '73. 9. 19 (Ama)
102. シラクモヨトウ *Apamea conciliata* Butler  
 '59. 5. 12 (Ama) '61. 5. 5 (Ama)
103. ベニモンヨトウ *Procus vulnerata* Butler  
 '62. 8. 11 (Ama)
104. クロモクメヨトウ *Dypterygia caliginosa* Walker  
 '60. 5. 30 (Ama) '61. 7. 3 (Ama)
105. ハジマヨトウ *Bambusiphila vulgaris* Butler  
 '61. 7. 19 (Senzan)
106. イネヨトウ *Sesamia inferens* Walker  
 '60. 4. 30 (Ama) '68. 5. 15 (Ama)

107. サッポロチャイロヨトウ *Luperina sapporensis* Matsumura  
'60. 5. 30(Ama)
108. シロスジアオヨトウ *Trachea atriplicis gnoma* Butler  
'70. 6. 5(Ama) '73. 6. 18(Ama)
109. ギンギシヨトウ *Atrachea nitens* Butler  
73. 5. 19(Ama)
110. モクメヨトウ *Axylia putris* Linne<sup>6</sup>  
'61. 5. 30(Ama) '73. 5. 18(Ama)
111. スジキリヨトウ *Rusidrina depravata* Butler  
'61. 5. 14(Ama) '61. 5. 17(Ama)
112. カラスヨトウ *Amphipyra livida corvina* Motschulsky  
8月~12月
113. オオシマカラスヨトウ *Amphipyra monolitha* Guenée  
'62. 8. 7(Ama)
114. モクメカラスヨトウ *Perinaenia accipiter lignosa* Butler  
'63. 3. 20(Ama)
115. フタテンヒメヨトウ *Hadjina biguttula* Motschulsky  
'58. 9.(Ama)
116. ハスモンヨトウ *Prodenia litura* Fabricius  
'58. 11. 6(Ama) '73. 9. 19(Ama)
117. シロモンオビヨトウ *Dadica lineosa* Moore  
'59. 9.(Ama)
118. シロテンウスグロヨトウ *Dadica albisignata* Oberthier  
'61. 5. 21(Ama)
119. ヒメサビスジヨトウ *Dadica truncipennis* Hampson  
'60. 5. 30(Ama)
120. マグラツマキリヨトウ *Calloplistria repleta* Walker  
'60. 8. 22(Ama)
121. ヒメツマキリヨトウ *Calloplistria duplicans rubrivena* Warren  
'60. 6. 14(Ama) '73. 6. 4(Ama)

122. キスジツマキリヨトウ *Calloplistria rivularis japonibia* Strand  
'61. 7. 15(Ama) '68. 5. 30(Ama)
123. コマルモンシロガ *Sphragifera biplaga hexagona* Bryk  
5月~7月多い  
(フサヤガ亜科 *Euteliinae*)
124. フサヤガ *Eutelia geyeri* C. et R. Felder  
58. 10. 21(Ama) 66. 3. 3(Ama)  
(キノカワガ亜科 *Nycteolinae*)
125. キノカワガ *Blennina senex* Butler  
'58. 11. 12(Ama) '62. 2. 11(Ama) '72. 6. 5(Ama)
126. リュウキュウキノカワガ *Risoba prominens* Moore  
'62. 9. 10(Ama) '73. 8. 1(Ama)  
(リングガ亜科 *Westermanniinae*)
127. ウスアオリングガ *Paracrama dulcissima* Walker  
'65. 9. 25(Ama)
128. ベニモンアオリングガ *Earias roseitera* Butler  
'60. 5. 2(Ama) '73. 9. 19(Ama)
129. アカマエアオリングガ *Earias pudicana* Staudinger  
'73. 4. 23(Ama)
130. ハイイロリングガ *Gabala argentata* Butler  
'58. 9. 12(Ama)  
(コヤガ亜科 *Acontiinae*)
131. ウスシロフコヤガ *Jaspidia stygia* Butler  
'59. 5. 10(Ama)
132. ニセシロフコヤガ *Jaspidia stygiodes* Sugi  
'60. 8(Ama)
133. ネモンシロフコヤガ *Jaspidia idiostygia* Sugi  
'61. 5. 20(Ama) '68. 6. 8(Ama)
134. シロマダラコヤガ *Jaspidia distinguenda* Staudinger  
'61. 5. 14(Ama) '73. 6. 5(Ama)

135. スジシロコヤガ *Jaspidia falsa* Butler  
60. 9 (Ama)
136. シロフコヤガ *Jaspidia pygarga* Hufnagel  
73. 5. 6 (Ama)
137. エゾコヤガ *Unca noloides* Butler  
60. 5. 2 (Ama) 73. 9. 19 (Ama)
138. ヒメオビコヤガ *Maliattha arefacta* Butler  
62. 9. 10 (Ama)
139. ヒメネジロコヤガ *Maliattha signifera* Walker  
73. 5. 30 (Ama) 73. 9. 20 (Ama)
140. シロヒシモンコヤガ *Micardia argentata* Butler  
59. 5. 14 (Ama) 71. 6. 1 (Ama)
141. フタホシコヤガ *Micardia pulchra* Butler  
69. 5. 24 (Nada)
142. ヨモギコヤガ *Phyllophila obiterata cretacea* Butler  
66. 8. 12 (Ama) 73. 5. 30 (Ama)
143. シラホシコヤガ *Enispa leucosticta* Hampson  
61. 6. 8 (Ama) 73. 5. 19 (Ama)
144. キスジコヤガ *Enispa lutefacialis* Leech  
61. 5. 20 (Ama) 73. 6. 5 (Ama)
145. シロスジシマコヤガ *Corgatha dictaria* Walker  
62. 6. 10 (Ama)
146. シマフコヤガ *Corgatha nitens* Butler  
60. 10 (Ama) 73. 6. 20 (Ama)
147. マエヘリクルマコヤガ *Oruza mira* Butler  
60. 8. (Ama)
148. モンシロクルマコヤガ *Oruza glaucotorna* Hampson  
70. 6. 5 (Nada)
149. ヒメクルマコヤガ *Oruza divisa* Walker  
61. 5. 27 (Ama)

150. モモイロツマホリコヤガ *Lophoruza pulcherrima* Butler  
'73. 9. 19 (Ama) '73. 9. 20 (Ama)
151. ベニスジコヤガ *Polyorycta dimidialis* Fabricius  
62. 9. 10 (Ama)
152. ツマトビコヤガ *Autoba tristalis* Leech  
70. 6. 13 (Nada) 73. 6. 5 (Ama)
153. ホシコヤガ *Ozarba punotigera* Walker  
'61. 9. 2 (Ama) '68. 5. 29 (Ama)
154. フタオビコヤガ *Naranga aenescens* Moore  
'61. 5. 2 (Ama) '61. 7. 15 (Ama)
155. サビイロコヤガ *Amyna stellata* Butler  
'73. 7. 7 (Ama) '74. 4. 3 (Ama)
156. フタトガリコヤガ *Xanthodes transversa* Guenée  
'65. 9. 25 (Ama)
157. ウンモンコヤガ *Stenoloba manleyi* Leech  
'73. 9. 22 (Ama)  
(キンウワバ亜科 *Plusiinae*)
158. ギンモンシロウワバ *Plusia purissima* Butler  
'71. 3. 21 (Ama)
159. エゾギクキンウワバ *Plusia albostriata* Bremer 1t Grey  
'73. 9. 19 (Ama) '73. 11. 3 (Ama)
160. イチジクキンウワバ *Plusia eriosoma* Doubleday  
'61. 9. 3 (Ama) '73. 10. 21 (Ama)
161. ミツモンキンウワバ *Plusia agnata* Staudinger  
'62. 9. 8 (Ama) '73. 9. 19 (Ama)
162. ウリキンウワバ *Plusia peponis* Fabricius  
'71. 12. 20 (Nada) '73. 10. 23 (Ama)
163. キクキンウワバ *Plusia intermixta* Warren  
'58. 10. 21 (Ama) '60. 6. 12 (Ama) '62. 2. 11 (Ama)

164. イネキンウワバ *Plusia festata* Graeser  
61. 5. 14 (Ama)
165. ギンスジキンウワバ *Plusia rutilifrons* Butler  
73. 6. 5 (Ama)
166. ワイギンモンウワバ *Plusia jessica* Butler  
データ不明
167. イラクサキンウワバ *Plusia ni* Hiibner  
58. 9. (Ama) 73. 7. 29 (Ama)
168. コセアカキンウワバ *Plusia ochreata* Walker  
59. 6 (Ama)

## 淡路島産のセミ類について

堀 田 久

淡路島のセミ類については、川原忠雄氏(1933年)と植村利夫氏(1938年)登日邦明氏(1973年)の記録があるが、いずれも断片的なものである。筆者がこれまでに採集したセミ類は普通種ばかりであるが、今後の調査のために現在までの知見を述べておきたいと思う。なお、次にあげた採集記録は、すべて筆者自身が採集し現在所有する標本によるものである。

### セミ科 Cicadidae

1. クマゼミ *Cryptotympana japonensis kato*  
洲本市安乎町, 1♂1♀, 10.V. 1946: 南淡町諭鶴羽山, 1♀, 1.V. 1973  
7~8月、各地に普通に見られ個体数も多い。
2. アブラゼミ *Craetopsaltria nigrofuscata* Motschulsky  
洲本市安乎町, 2♀, 3.V. 1947  
7~8月、最も普通の種で各地に多産する。
3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius  
洲本市三熊山, 1♀, 16.V. 1946, 1♀, 30.V. 1951  
7~8月、各地に普通で個体数も多い。

4. ヒグラシ *Tanna japonensis* Distant

洲本市先山, 1♂, 30.VI. 1948, 1♀, 7.VII. 1951, 1♂, 12.VIII. 1952  
7~8月、山地に普通で個体数も多い。

5. ハルゼミ *Terpnosia vacua* Olivier

洲本市安乎町, 1♂, 5.V. 1972, 1♀, 18.V. 1974  
4月末から6月上旬にかけて各地に普通である。

6. ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura

本誌68で報告したように、南淡町の諭鶴羽山で再発見された。登日邦明氏は南淡町阿万に  
おいて1♂を採集された(本誌69)

7. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker

洲本市安乎町, 1♂, 2.IX. 1946: 洲本市先山, 1♀, 16.VIII. 1950  
8~9月、各地に普通で個体数も多い。

8. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* Motschulsky

洲本市先山, 1♀, 17.VIII. 1946, 1♂, 1.IX. 1947: 諭鶴羽山, 1♀, 1.VIII.  
1973  
7月下旬から9月上旬にかけて、各地の山地に普通である。

9. チッチゼミ *Melampsalta radiator* Uhler

筆者は1940年代に本種を採集した記憶があるが、標本は残っていない。山崎俊道氏は  
1973年8月に諭鶴羽山頂で本種の脱皮殻を採集された。この脱皮殻は現在筆者が保管して  
いる。

以 上

### 淡路島でコカブトムシを採集

筆者は、洲本市安乎町で淡路島から未記録のコカブトムシ *Eophileurus chinensis*  
*Faldermann* を下記のように採集したので報告しておく。

1973年10月14日 1♂

1973年10月28日 1♂

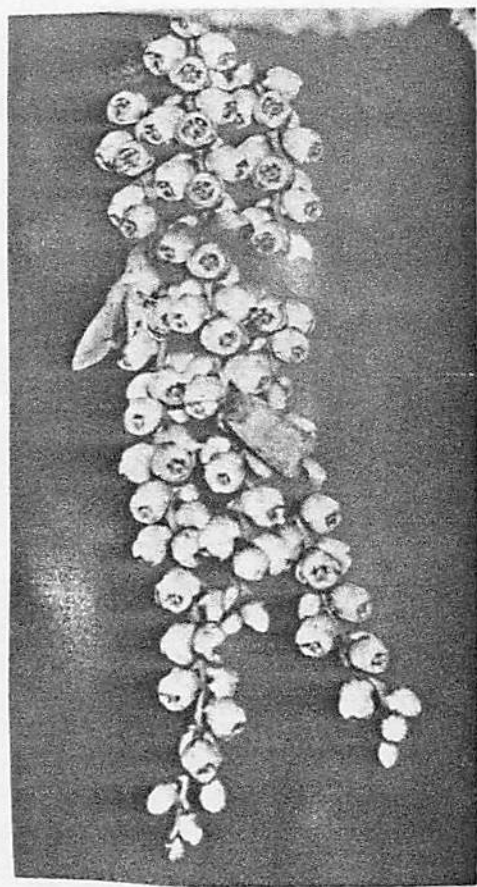
(堀 田 久)

## 夜間における蛾類の集団吸蜜例

登 日 邦 明

1974年3月31日、淡路島南部の洲本市上灘中津川で蛾類の燈火採集を実施した際、偶然の機会から、燈火採集地点から800mあまり隔った場所で、キブシ *Stachyrus praecox* Sieb. et Zucc. の花に吸蜜している蛾の群を発見した。

詳細に観察すると樹高2.5mあまりのキブシの花(穂状花序)に、クロテンキリガ *Orthosia fausta* Leechをはじめ数種類の蛾が、1~3頭の割合で吸蜜しているのが認められた。ブタ



キブシ (*Stachyrus praecox* Sieb. et Zucc.) の花で吸蜜するカバキリガ(左)とクロテンキリガ(右)

ンガスランブを近付けると、一部の蛾は翅を閉じたまま地面に落下した後、飛び去った。それから30分あまりの間にも、数頭の蛾が飛来し、吸蜜を開始するのが観察できた。その後、ブタンガスランブを近付け、落下する蛾類を可能な限りネットで採集したが、全体の6割あまりの71頭しか採集できなかった。採集品を整理してみると下記のListのようであった。ヤガ科はすべてキリガの仲間でクロテンキリガがその大部分を占め、シャクガ科は3種9頭を見出したが、すべて♀であった。トガリバガ科のものも1種認められた。この結果から、午後11時30分すぎにこの1.5mあまりの空間に咲くキブシの花に吸蜜のために飛来していた蛾類の総数は100頭を上回っていたものと推測される。これは、同日燈火採集で得た蛾類12頭に比較するまでもなく、おどろくべき数である。

従来、蛾類の吸蜜活動の観察例としては、昼間あるいは夕刻に訪花する一部の種類のものが知られていたが、夜間の集団吸蜜活動の観察例は知られていないようなので記録しておきたい。



今後、夜間に草・木本を問わず、各種の花を詳細に調査することにより、蛾類の吸蜜活動は次第に明らかにされるものと思う。同学諸兄の協力をお願いしたい。

キブシの花で得た蛾類の List

NOCTUIDAE

1. *Orthosia limbata* Butler シロヘリキリガ 2♀
2. *Orthosia evanida* Butler カバキリガ 1♀
3. *Orthosia odiosa* Butler チャイロキリガ 2♂ 1♀
4. *Orthosia fausta* Leech クロテンキリガ 26♂ 30♀

GEOMETRIDAE

5. *Pachyligia dolosa* Butler アトジロエダシヤク 1♀
6. *Descoreba simplex* Butler ハスオビエダシヤク 3♀
7. *Planociampa antipala* Prout ヒロバトガリエダシヤク 5♀

THYATIRIDAE

8. *Demopsestis punctigera* Butler ホシボシトガリバ 1♂

## 編 集 後 記

絶好の採集シーズンを迎えて、会員の皆様にはそれぞれご活躍されていることと思います。

本年度の第1号をお届けします。秋には第2号を発行しますので、原稿をどしどしお送り下さい。

(堀田)

### PARNASSIUS No.12

発行日 1974年6月15日

編集者 堀田 久

発行所 淡路昆虫同好会

(事務所) 洲本市安乎町北谷 堀田 久方

印刷所 れいめい社

洲本市本町5丁目1番24号